

新橋 日比谷神社

新橋四丁目町会
新橋五丁目町会
東新橋一丁目町会
汐留町会
新橋二丁目町会
新橋駅前ビル自治会

大祭

令和7年5月

9日(金)

宵宮

10日(土)

大祭式

斎行 午前11時

11日(日)

5月9日(金)夕刻より、境内で
芝浜囃子が奉奏されます。

大祭式中に
舞楽「蘭陵王」
が奉納されます。
※写真はイメージです。

ご挨拶

日比谷神社宮司 三宅徳行



先ず以て御皇室の弥栄を壽ぎ奉り、あわせて日本の安寧を心より祈念いたします。

当社日比谷神社の大祭齋行に先立ち、一言ご挨拶申し上げます。氏子崇敬者の皆様には、日ごろより神社運営におきまして並々ならぬお力添えをいただきまして誠にありがとうございます。昨年は思わぬ事態により、長らく休職することとなりました。皆様には大変なご迷惑とご心配をおかけしてしまい、誠に申し訳ございませんでした。皆様のご配慮とお心遣いのおかげを持ちまして体調も回復し、本年四月より無事復帰を果たすことができました。心より感謝申し上げますとともに、今後はより一層、神明奉仕に努めまして、氏子地域の発展と伝統の護持に寄与する所存でございます。

二年に一度行われる当社の例祭は、古来より継承された伝統と歴史を後世へとつなげるものです。少子高齢化の波は当社氏子地域においても例外ではなく、御神輿の担ぎ手は年々減少しております（なお、本年の御神輿の渡御は諸般の事情をかんがみ中止となりました。何卒ご了承ください）。

ご多用のことと存じますが、何卒神恩報謝の真心をお捧げ頂き、格別の御奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、氏子崇敬者の皆様の御健勝と御発展を心より祈念いたします。御挨拶と致します。

御由緒

当日比谷神社は、古くから旧麴町区日比谷公園の大塚山という所に鎮座し、日比谷稻荷明神旅泊稻荷明神と称しておりました。『江戸名所図会』には、修験寂靜院の本山の別当（高官の兼務職）であるとの記載があり、当時は神道と仏道の両部が祀られておりました。

慶長十二（一六〇六）年、江戸城築城に際し日比谷御門を造営することとなり、氏子と共に芝口に移動、九か町の産土神となりますが、町名は従来のまま、日比谷となっておりまして。しかし、寛永七（一六三〇）年、新橋に新しく芝口御門を造営することになり、町名も日比谷町から芝口町へと改称することになりましたが、神社の社号の「日比谷」は変わることなく現在に到ります。

また『江戸名所図会』には、万治年間（一六五八～一六六六）に、藍屋五兵衛という者がお告げを受けて、「花洛 藤森の稻荷（京都の正位伏見稻荷大社）」から勧請したとあります。創建年代が略記と異なるため、これは当社が正位である格式を伝えるための話と思われまします。

いづれにしても芝口の地（芝区芝口三丁目十七番、十八番）に御鎮座して四百有余年となる古社であります。

御霊験著しいことから崇敬者も多く、伊達、脇坂、中川、肥後、本堂、毛利、井上、片岡家の諸公からも篤い崇敬を集めていたといわれます。江戸幕府の時代には毎年一月六日に神札を捧持して登城する慣例があり、また大祭と初午日には御神輿の巡幸があり、提灯、幟などが掲げられ昼行燈なども飾られて賑わったといわれております。

明治五（一八七二）年に村社に列せられ、その後、関東大震災（大正十二年）の影響で昭和三年の都市計画区割整理の対象となり、愛宕下町二丁目（現新橋四丁目十三番九号）に換地されて、日比谷神社の御社殿が造営されました。以降、新橋の鎮守様として広く崇敬を集めております。

昭和二十年の東京大空襲により、社宝・神剣長光作鶴丸造と翁面、石笛などを焼失するなど、幾多の災厄に遭うも、その都度氏子崇敬者の方々の御厚意をもつて再建して参りました。

平成二十二年に、都市道路計画（環状二号線）の建設により、御社殿を東新橋三丁目に建造されました。現在では新橋四丁目町会・新橋五丁目町会・汐留町会・新橋一丁目町会・新橋駅前ビル自治会・東新橋二丁目町会及び汐留シオサイト地区の氏神様として変わらぬ崇敬を集めております。



日比谷神社

〒105-0021 東京都港区東新橋 2-1-1
TEL 03-3433-2034 FAX 03-3431-5573

日比谷神社

検索

JR 山手線・東海道線・京浜東北線・東京メトロ銀座線
都営浅草線 新橋駅 徒歩約 5 分
ゆりかもめ線・都営大江戸線 汐留駅 徒歩約 3 分